

ホーム名：グループホーム東神田の里					
##	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を具体化したユニット独自の理念を職員間で考え、目につく場所に掲示している。職員が定期的に目にする事で、日々のケアをあらためながら共通意識を高めている。	玄関に掲げている法人の理念に基づき、各ユニットごとに理念に基づく目標を職員間で話し合いながら、定期的に変更されている。目標は、食堂に掲示され、職員の日々のケアの意識付けにもつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の年間行事や運営推進会議等を通じて地域イベント中心に交流を深めている。	地域の小学校の運動会を利用者が見学したり、職員が地域の清掃活動に参加したりしている。自治会に加入し、自治会長が運営推進会議に参加されている。今後は、新たな取組みとして、地域交流を目的とした認知症カフェを開催していく計画が予定されている。	認知症カフェの目的が地域交流や事業所の周知にも活用できるよう、「介護の不安や悩みを相談できる地域交流カフェ」の要素も重視し、運営されていかれることに期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者の日常についての話をし、地域行事を通じて認知症の方の理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、参加者からテーマや課題に対し貴重な意見をいただき、サービス向上に努めている。従来参加されている方々へは、参加の有無にかかわらず毎回記録を郵送している。	自治会長、地域包括支援センター職員等が出席されている。以前は、利用者と家族も参加されていたが、様々な事情により、参加が難しい状態である。会議の結果は、議事録を作成し、事業所内で共有されている。	他のグループホームの運営推進会議に参加したり、招いたりしてはどうか。他施設と相互に運営状況や課題と解決策を共有することも有意義と思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で、地域包括支援センターを通じて情報共有を行い、会議内容を後日関係者へ開示している。入居者に生活保護受給者の方もおられるので、市の担当者へ相談し、アドバイスをいただく等、質の向上を試みている。	日頃から、市と緊密に連携し、困難な問題等、市からのアドバイスを取り入れながら対応されている。その結果、市との相談体制が構築され、運営推進会議議事録も共有されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、年に二回の法人内研修を行っている。研修を通じ、講義資料を誰もが目にする場所に置き、ユニット会議で周知共有し、実践と共に身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束を含む虐待についての研修が、計画的に開催されている。家族から身体拘束についての要望があった場合においても、身体拘束しないケアについて説明し、理解を得ている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、年に二回の法人内研修や外部研修を通じ、不適切なケアにより権利侵害にならないよう教育をしている。軽微で不適切なグレーゾーンとなるケアを放置し、助長しないよう、ユニット内では更衣や入浴の際ボディチェックを行い、虐待が見逃されることがないように職員間でタイムリーな情報交換を行い虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を導入し、後見人を通じて学んだことを、記録や申し送りにて職員個々の理解を深めている。また、年に二回の法人内研修や外部研修で学ぶ機会を設けており、得た情報を職員間で共有するとともに、研修資料等をファイルし、職員がいつでも観覧できる場所に置き、今後の支援に役立てるよう準備している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には、管理者が面談を行い、十分な説明を行っている。改定等の際は、書面等で報告を行い、不明な点は電話や面会時に説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10 6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪された際や、電話での対応時、職員は家族の意見や要望に極力応じられるよう意見交換・情報共有を行っている。内容により、直接外部者や管理者へお話しいただき、得た情報を職員間で周知共有し、意見を運営に反映させている。事業所内でのバーチャルチームは構成できていないが、タイムリーに伝達するためにスマートホンでのSNSの利用を一部活用している。</p>	<p>家族と話をする機会を積極的に設け、要望や意見を積極的に取り入れてケアに反映させるよう心掛けている。家族との連絡手段も、要望に応じて、電話以外にSNS等でも対応できるよう新たな取組みにも力を入れている。</p>	
11 7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>運営に必要なことをユニット会議等を通じ、リーダー会議で意見提案をあげることで、隣接のグループホームとの意見共有を図っている。</p>	<p>管理者は、ユニットリーダーと緊密に連携しながら、各ユニットからの要望や意見を運営に反映させている。各職員との個別ヒアリングを行う取り組みもされており、職員から管理者へ相談しやすい関係を構築されている。</p>	<p>職員の資質向上、意識改革の必要性を感じている点について、研修も効果的と思われるが、個別ヒアリングの頻度を増やして、職員一人ひとりの個性や考え方と向き合う体制作りも大事かと思われる。又、職員からの提案は、口頭でなく、文書化し、自分の考えを整理していく取組みにも期待をしたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>極力職員個々の事情に合わせた勤務体制を整え、ストレスのない環境を提供している。また、内部研修での学習や資格支援制度の導入により、就業しながら知識や技術を学び、やりがいや向上心を養いながら給料のベースアップにも繋がる環境体制になるよう努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の年間研修計画に基づき、各ユニットリーダーがテーマに沿った内容を勉強し、OJTを実践している。また、リーダーは各職員が内外研修を受講するにあたり、受講頻度が偏らないようシフト調整を行い、皆が均等にトレーニングできるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>運営推進会議や親睦会で、地域の役員や地域包括等との交流を図っている。また、内部研修や外部研修から他施設や専門分野との接点を持ち、意見交換や情報交換を行い、サービスの質を向上させるよう努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>安心して共に生活するために、サービス開始時には、要望や不安点等、得た課題やニーズに対し、真摯に向き合い、寄り添うことで安心が得られるよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学会、面談会等のインテークでは、現状確認を行い、家族からの情報を出来るだけ細かに収集している。得た課題やニーズに対し、真摯に向き合い、寄り添うことで安心が得られるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用前のインテークでは、本人にとってより良いサービスを提供できるよう、ご家族からこれまでの経緯等を細かく聞き、家族や本人の思いを受け入れ、今必要としているサービスを一緒に考え、提供できるサービスの提案を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の状態を見極め、本人の意思に基づき、本人の好みや、今できることをできる限り自由に取り組んでいただいている。手作り食の日は、家庭的な雰囲気を作り、知恵を聞かせていただいたりと、本人を尊重しながら、共に生活している関係づくりに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>夏祭りや敬老会の2大行事をはじめ、事業所独自の企画行事等に参加していただく意義を伝え、本人との絆が途切れないよう努めている。また、面会時には、近況報告を行い、日々の状態を知っていただくことで、今必要なサービス等を職員と一緒に考え、共に本人を支えていく関係性を築けるように努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人や友人が面会に来られた際、いつでも気軽に来訪していただける風土づくりに心掛けている。また、趣味である吹奏楽等のコンサートや昔よく利用した親子での外食等、本人と家族の意向を尊重し、本人の状態に応じて、極力馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。</p>	<p>ご家族だけではなく友人、知人にも気軽に面会してもらえよう取り組んでおられる。フェイスシートだけではなく、日々のケアの中で知り得た利用者の好みや趣味などを馴染みの人や場所との関係性継続につなげている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや手作り食では、職員が状況を見ながら声掛けし、利用者同士が協力し、共に楽しく過ごせる環境づくりに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても、相談があれば、できるだけ必要に応じた支援ができるよう所定の場所に記録を保管している。また、外出先等で接点があった場合、相手の許される範囲で近況共有し、互いの理解を深めている。同じ地域の住民として、必要可能な限り、これまでと変わらぬ関わりを保てるよう努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>共に暮らす中で、普段から入居者との関わりを意識し、一人ひとりと触れ合いながら希望や意向の把握に努めている。また、意思の疎通が困難な方は、これまで生きてきた背景から本人が何をしてほしいかを検証し、気付きノートを利用して、把握できるように努めている。</p>	<p>普段のケアの中で利用者の想いを把握するよう努め、把握が困難な場合は家族から聞き取りを行っている。 スタッフが気付いたり気になったことを「気付きノート」に記録し、スタッフ間での共有や通院時の情報提供にも活用されている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>一人ひとりの情報は、ご家族や本人から収集するが、家族からの聞き取りの際は、背景をすることが認知症ケアのサービス利用において必要不可欠なものであることを説明し、理解納得を得よう努めている。結果、個人ファイルに生活のニーズを更新し、職員間で共有している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日、一人ひとりの状態を申し送りにて把握し、必要である場合は、個人記録ノートや一括管理シートに記載している。タイムリーに把握できるようSNSも取り入れ現状の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎日のユニット会議でカンファレンスを実施し、新たな情報に関係者が理解し、サービス反映に努めている。普段では、家族を含め、ホットな情報をSNSを通じ共有し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員が利用者や家族から知り得た情報は、ユニット別にノートに記録し、ケアマネジャーとも情報共有を図り、ケアプランにも反映されるよう努めている。家族との情報交換には、SNS等を活用した新たな取り組みにも力を入れておられる。</p>	<p>利用者一人ひとりの正確なケア記録と事業所内での共有化等がケアプラン作成にも大事かと思われる。介護記録のシステム化等、今後、検討されていかれることに期待をしたい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個人の様子をパソコンやノートに記録し、SNSを活用して、より細やかな個別情報を職員間で共有している。定例のケアカンファレンスでモニタリングを行いながら、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の協働による外出や外食等、利用者の状態に応じて、社会との関りや周囲との繋がりを持っていただき、個別性、独自性を重視し、可能な限りホーム内で提供する以外の新規分野サービスの支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会の協力により、地域行事の情報提供を頂き、現状、参加できる方には、住民の方々との交流を積んでいる。利用者自身が、地域の一員であることの安心感や、周囲とのつながりを感じていただくことで、生きがいを養いながら安心安全で、心豊かな暮らしを提供できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体である病院と、提携している訪問歯科にて毎月定期に往診が行われている。また、状態により専門性が必要であろう場合は、家族の協力のもと、主治医を通じて適切な医療がスムーズに受けられるよう支援している。緊急時のドクターカーの利用には至らないが、24時間体制で訪問看護と連携し、サポートできるよう支援している。</p>	<p>事業所のかかりつけ医による受診により、迅速かつ適切な対応を心がけている。 一方で、かかりつけ医からの意向等がある場合は、家族の協力を得ながらその意向に添うよう対応されている。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>職員は、一括管理シートやバイタルチェック表、水分チェック表等の記録やケアの実践から状態を踏まえ、SNSからの共通理解も行っている。毎週の訪問看護で、看護師に情報提供を行い、入居者がより適切なケアを受けられるよう支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院後は、定期的に家族と相談しながら介護職員が面会へ行き、医療機関と病状や退院時期についての意見交換を行い、退院前にはカンファレンスを行っている。帰所後のケアがスムーズに実践できるよう努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい</p>	<p>重度化については、契約時に説明を行っている。また、面会に来られた際は、定期的に家族の方針を確認し、重度化や終末期の理解を深めている。家族へは、母体の医療機関から病状説明を行うなど、今後の支援策定に努めている。</p>	<p>入所の際に看取りについて、書面にて聞き取りを行っている。その後、意向が変わっていないか再確認をされている。又、終末期にも体制を整えて、できるだけ対応され、利用者や家族に寄り添ったケアを心がけている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修にて、心肺蘇生やADLの技術と知識を学んでいる。これに伴い、急変時や事故発生時の緊急マニュアルを職員の誰もが目につく場所に置き、応急手当や初期対応の実践力を身に付けている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施しており、災害時に迅速な対応ができるよう技術と知識を学んでいる。また、法人内に災害委員会を設置し、運営推進会議を通じて、自治会や市役所の方々と避難についての方法や最新の防災備蓄食についてを話し合い、地域との協力体制を築いている。自治会からは夜間職員の人員不足や指定避難所への送迎手段を懸念されており、他施設との協働も要されるが、迅速安全に避難できるように、隣接(同法人)のグループホームや特養との協働施策を検討している。</p>	<p>避難訓練を年2回実施し、夜間想定も行われている。隣接する法人の介護施設は、福祉避難所にもなっており、水災・震災などで連携できる体制づくりにも取り組んでおられる。</p>	<p>普段から地域と連携した災害対策を行うため、避難訓練に消防署員の参加が見込めない場合、地元の消防団員や地域住民などにも声がけしてはどうか。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者が不当な差別や偏見が生じないよう、ユニット理念を基に職員間でケアのあり方を確認し合い、適切なケアへの共通意識を高めている。日々、利用者一人ひとりが安心した生活が送れるよう、年長者として個々の人格を敬い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>利用者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。 又、言葉づかい以外でも尊厳を大切にケアにも努めておられる。</p>	<p>尊厳について、スタッフの意識には多少のずれが生じてしまう可能性もあると思われるので、ユニット会議などを利用して、職員間での意識づけを共有してはどうか。</p>
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段から楽しく明るい雰囲気づくりに努め、利用者が得意とする活動支援等を交え、一人ひとりが生きがいとなる日常を送れるよう支援している。また、表出した思いや希望を受容し、ひとつひとつ確認しながら、コミュニケーション等の手段を通じ、極力本人本位で自己決定ができるよう働きかけている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>極力利用者一人ひとりの意向やペースを乱さないよう、利用者中心の生活に重きを置き、本人の希望にそった生活リズムで過ごせるよう支援している。例えば、就寝時間は職員の都合にならないよう、居室やフロアでテレビを観ていただいたり、活動支援は職員本位にならないよう、本人がこうしたいという意思・価値を優先し、本人本位の生活が送れる希望にそった支援をしている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の意向のもと、馴染みのある整容品やボディーローション、髪留め等のおしゃれ用品を、面会を通じて家族に持参していただいている。また、外出の際は、家族におしゃれ着を持ってきていただき、非日常による適度な刺激により、充実した日を過ごせるよう支援している。家族との協働が密にとれない方は、既存の衣類やおしゃれ着等を一緒に選ぶ等、本人が孤立しないよう、職員がサポートし、本人が納得いく身だしなみやおしゃれができる支援をしている。</p>		
40	<p>15</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月に2回の手作り食を行っている。職員は、利用者一人ひとりの状態を見極め、個々の意思を尊重しながらその時出来る範囲で取り組んで頂き、職員と共に食事を楽しむ機会を設けている。</p>	<p>手作り食の日を決め、利用者にはできる範囲の調理補助をされている。普段にはないメニューを考案し、職員と利用者の共同作業で作るため、利用者の食欲もいつも以上とのこと。 外食の機会もあり、利用者の好みに合わせた飲食を楽しむことができている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>バイタルチェック表と水分排泄チェック表を通じて、普段の食事と水分量を把握している。一人ひとりの状態に応じて、母体である病院の主治医や訪問看護と連携し、食べる量を調整したり、食事形態を変えて提供している。ミキサー食の方については提供時、献立をひとつひとつ説明し、おいしく食べていただけるよう支援をしている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に、一人ひとり声掛けを行い、見守り介助等、その日の状態に応じた口腔内ケアを行っている。定期の訪問歯科にて口腔内清掃や義歯のチェックを行い、毎回結果報告、アドバイスを受け口腔内管理に努めている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握しているが、行きたいときに行けるよう、本人の意思に基づいた失敗の無い支援に努めている。誘導前の声掛けでは、羞恥心・自尊心を傷つけないよう働きかけ、排泄に対して抵抗しないよう努めている。立位がとれる方はトイレ誘導を行い、自立心を養えるよう、おむつを使わない支援に努めている。</p>	<p>職員は、自立・見守り・一部介助など、利用者が自分でできる能力を伸ばすための細やかなケアを心がけている。</p> <p>夜間は、定期巡回し、利用者の排せつのタイミングにあわせた支援できるようになっている。</p>	<p>骨盤周りの筋力を鍛える体操を実施することにより、今できている排泄能力を維持できることもあるようなので、医療機関と連携した取組みにも期待をしたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日二回の体操他、家族と相談し、乳酸菌物や野菜ジュースを提供して腸内が健康に保てるよう努めている。それでも不十分な時は、主治医や訪問看護師に働きかけ、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日が偏らないようスケジュール管理し、入浴前には声掛けを行う等、本人の状態を見極めながら希望に応じた支援をしている。入浴中はコミュニケーションに心がけ、心身のコンディションを確認しながら、本人が楽しく利用できるよう努めている。事前に本人の気分がすぐれない時は、無理強いせず、ゆっくりしていただくか、足湯でリラックスしていただいている。</p>	<p>入浴は週2回、計画をたてて、入浴介助が行われている。</p> <p>又、入浴の機会を利用者とのリラックスした環境でのコミュニケーションをとる場としても活用されている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を尊重した支援に努めている。生活リズムが崩れている場合は調整するが、夜間に関しては、普段、眠たくなるまでフロアで好きなテレビや録画を観ていただいたり、職員と会話をする等、その時々状況に応じてながら、安心されるタイミングで気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情を利用者個人情報ファイルに綴じ、必要な時にいつでも参照できるようにしている。何か症状に変化がある場合は、母体の医療機関や訪問看護に指示を仰ぎ、適切な対応ができるよう努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の情報や日々重ねる家族や本人との会話から、利用者それぞれ多岐にわたる生活歴を収集している。利用者一人ひとりの趣味嗜好や願いが叶うよう家族と協働し、いきいきとした喜びある場を提供できるよう支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>職員の時間確保が出来る時は、散歩に出かける等、外気に触れて頂き気分転換を図っている。また、家族の協力により、馴染みの場所へ外泊したり、親族と親睦ができる支援に努めている。地域の人や同法人である隣接の施設との外出交流は現状調整困難なため実現できてないが、地域行事や法人行事である夏祭りや敬老会を中心にイベント等を通じて交流を行っている。</p>	<p>職員は、利用者が日常的な散歩や買い物に行けるよう支援を行っている。外出イベントでは、隣接の法人介護施設の車両を借りての遠出も行われている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つと紛失する危険性があるのでユニットと事業所で管理をしている。家族へは、面会時に必要なものを揃えていただき協力を得ている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話が使える方は、利用して頂き、親族や知人の方いつでも対話ができるよう支援している。手紙のやり取りについては、家族了承のもと、身内や知人の方からのお便りを一緒に読ませて頂いたり、皆様へ暑中見舞い、年賀状等を送る等、大切な人との繋がりを保てるよう支援している。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間では、必要な場所に表示を施し、目で見てわかりやすくしたり、四季に合わせた飾り付けをすることで、少しでも季節を感じていただけるよう支援している。また、空調管理にて身心共、快適に過ごして頂けるよう配慮し、テレビを視聴する際には字幕を入れたり、音楽鑑賞をする時には、映像でも楽しめるDVDを流したりと、耳が聞こえない方や難聴な方にも楽しめるよう工夫している。</p>	<p>共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾がなされ、利用者が作成した作品が掲示されている。イベントの写真は、利用者の記憶の刺激や、会話の材料にもなっている。又、利用者がリラックスできるように利用者の状態に応じた音楽や映像を楽しめるよう工夫もされている。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士が集う共用空間では、ゲームや手作り食、ユニット行事等に職員が介入し、コミュニケーションを図りながら、誰もが緊張無く楽しい輪へ、明るい環境になるよう努めている。また、設備構造上を踏まえ、共用空間で独りの時間を十二分に使うことは難しいが、個としての自主性を尊重し、フロアや居室を自由に選択していただき、好きな場所で趣味嗜好が楽しめるよう、独自のペースでストレス無く過ごせるよう支援している。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には日めくりカレンダーや思い出の写真、生け花を置く等、本人が好まれる彩り豊かな装飾が施されている。また、多岐に使用していた家具や趣味である文庫本を揃え、おしゃれが出来る馴染みの品も並べている。空気が乾燥する時期は、加湿器を置く等、その時々本人の状態や環境の変化に適應できる環境づくりに努めている。また、過度の環境の変化によりストレスにならないよう家族と検討し、居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>利用者の居室は、希望に応じて、家族とも相談しながら、思い出の品等が持ち込まれている。又、常に気持ちよく利用者が生活できるよう、衛生面と清掃にも気が配られている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>大きくは、ユニット会議やカンファレンスで、利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、日々の状態と合わせて、その日できることや得意なことに取り組み、独自性を活かしながら価値ある生活を送れるよう工夫している。フロア内には利用者が混乱せず、安全に移動できるように手摺を設置したり、物事を認識できるように用途に合わせた表示を施し、自立心を傷つけず、安心した生活を送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない